

# ガラスのうつわ

## 手から生まれる暮らしのかたち

2018年7月28日(土)～11月4日(日)

9:00～17:00(入館は16:30まで)



中央右/「レモン鉢」永木卓、2018年、作家展 左奥/「三彩花瓶」船木倭帆、制作年不明、船尾地所株式会社 右奥/「手付真角瓶」小谷眞三、制作年不明、作家展  
手前/「りんご皿」ダークグレー」オオタ硝子研究室、2018年、作家展 中央左/「デザートグラス」青」小谷栄次、2018年、作家展 中央/「ワイングラス」翁再生硝子工房、2018年、作家展

【展覧会名】 特別展 「ガラスのうつわ 手から生まれる暮らしのかたち」

【会 期】 平成 30 年 7 月 28 日(土)～11 月 4 日(日) 開館時間 9:00～17:00(入館は 16:30 まで)  
\* 休館日 8 月 21 日(火)、9 月 18 日(火)、10 月 16 日(火)

【会 場】 石川県能登島ガラス美術館 展示室A、D

【出品作家】 永木卓、オオタ硝子研究室、翁再生硝子工房、小谷栄次、小谷眞三、船木倭帆 \*50 音順

【作品点数】 132 点

【入 館 料】 高校生以上/個人 800 円(20 名以上の団体 700 円)、中学生以下 無料

【主 催】 石川県能登島ガラス美術館(公益財団法人七尾美術財団)

【後 援】 七尾市教育委員会、NHK 金沢放送局、北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、エフエム石川、ラジオななお

【協 力】 のとじま手まつり実行委員会、松尾地所株式会社

【お問合せ】 石川県能登島ガラス美術館 〒926-0211 石川県七尾市能登島向田町 125-10  
TEL:0767-84-1175 FAX:0767-84-1129

本展担当学芸員: 竹本加奈 E-mail: [takemoto@nanao-af.jp](mailto:takemoto@nanao-af.jp)

※企画展会期中には、展示室 B・C にて当館のコレクション展も行います。

### ■ 展覧会について

私たちが普段の生活の中で手にする「うつわ」に着目した展覧会です。1960 年代のアメリカで、作家が個人工房で自身の作品を作ろうと起こった「スタジオ・ガラス運動」は日本でのガラス素材への認識を一変させました。そして、使われるもののなかに美を見出す民芸の思想、ガラス教育機関の充実など、日本のガラス界の変動とともに、作家の手によって多種多様なガラスのうつわが作られるようになりました。そこには、作り手の姿勢や思考が反映されています。本展では、個人による制作活動を始めた先駆者である船木倭帆、小谷眞三、日々の暮らしを見つめて制作を行う小谷栄次、栄木卓、翁再生硝子工房、オオタ硝子研究所の 6 名の作家を紹介し、暮らしに寄り添うガラスのうつわに見る表現・かたちの現在(いま)を探ります。

## ■ 出品作家プロフィール



### 松木倭帆 FUNAKI Shizuho (1935-2013)

松江市にある布志名焼窯元の家生まれ、民藝の提唱者である柳宗悦、河井寛次郎や濱田庄司らと親交があった陶工の父・松木道忠の元、やがて日本人の暮らしに馴染む「普段使いのガラス」を作ることを志すようになった。鮮やかな色ガラスに独自の装飾を施しながら、量感のある柔らかなフォルムは、使い勝手のよい安定感と手によく馴染む心地よさを感じさせる。

後／「三彩花瓶」制作年不明、松尾地所株式会社蔵 前／「モザイク文鉢」制作年不明、松尾地所株式会社蔵



### 小谷眞三 KODANI Shinzo (1930-) 岡山県在住

日本のガラス界において、小谷は自ら窯を築き、個人での制作を開始した先駆者の一人であり、試行錯誤の後に「倉敷ガラス」を生み出した。倉敷民藝館館長であった外村吉之介から受けた教訓「健康で、無駄がなく、真面目で、威張らない」から導き出した小谷のうつわは、機能と実用性を重視した、華やかな装飾のないシンプルな形状をしており、厚めに吹かれたガラスがどっしりとした安定感と健康的な力強さを感じさせる。

右／「手付長角瓶」制作年不明、作家蔵 左／「白泡ゴブレット」制作年不明、作家蔵 前／「ワイングラス」制作年不明、作家蔵



### 小谷英次 KODANI Eiji (1961-) 岡山県在住

「倉敷ガラス」の創始者である小谷眞三を父に持つ小谷は、大学で写真を学ぶも、「自分は将来ガラス制作で身を立てる」という思いがあったという。その後、父・小谷眞三に弟子入りし、「倉敷ガラス」として自身のうつわを制作している。眞三が素朴な力強さを感じさせるのに対し、英次のうつわは柔らかさや優しさを感じさせ、その時々暮らしにあったものを作ることを目指し、その思いはうつわの細部に宿る。

後／「デザートグラス 青」2018年、作家蔵 前／「波紋大鉢 薄青」2018年、作家蔵



### 翁再生硝子工房 OKINA RECYCLE GLASS STUDIO

#### 森岡英世(1979-) 菅深雪(1977-) 広島県在住

2007年にガラス作家森岡英世と菅深雪が立ち上げたガラス工房。酒や調味料を入れる容器として使われるガラス瓶を溶解し、食器やアクセサリーを制作する。一般的なガラスよりも溶けて固まるまでの時間が早く、使える色の種類も限られるなど、扱いづらいガラスであるが、試作を繰り返し、使いながら形や重量感を調整する中で生まれるガラスの揺らぎが温かみとなって表れる。

左／「カラフェ」2018年、作家蔵 右／「ワイングラス」2018年、作家蔵



### 栄木卓 EIKI Taku(1979-)

東京ガラス工芸研究所を修了後、多摩美術大学へと進み、大学卒業後に在籍したあづみ野ガラス工房で、食器などの制作や工房運営に携わったことがきっかけとなってうつわ制作を始めた。「器に容れる何かがあり、その器を使う誰かがいる。その『何か と 誰か』、それらを繋ぐことが『うつわ』と考え、ガラス表面に道具の跡が見えず、透明で限りなくシンプルなうつわは、ひたすらにその役割に徹しているようである。

右/「レモン鉢」2018年、作家蔵 左/「ボウル」2018年、作家蔵 前/「ボウシ」2018年、作家蔵



### オオタ硝子研究室 太田良子(1971-) 京都府在住

「オオタ硝子研究室」とは、ガラス作家太田良子が、うつわを制作する際に用いる活動名。自分が楽しむこと、そしてそれが相手に伝わるうつわを作りたいと考え、うつわの制作を始めた。その中で特に楽しんでいるのがガラスの色の探究であり、テストピースを繰り返し作りながら、自分が求める色を作り出す。細部まで丁寧に仕上げることで生まれるガラスの表情の変化が魅力である。

後/「大鉢 ネイビー」2018年、作家蔵 左/「リム皿 ダークグレー」2018年、作家蔵 前/「リム中皿 白」2018年、作家蔵

## ■関連プログラム

### 「ビー玉で作るランプシェード」

ビー玉を使ってドーム型のランプシェードを作ります。

日 時： 8月4日(土)、5日(日)、10月20日(土)、21日(日)  
10:00~15:30 \*12:00~13:30は受付休止

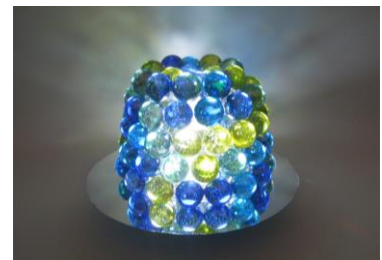
場 所： 会議室

参加費： 500円(高校生以上は別途入館料が必要)

所要時間： 約40分

定 員： 各日20名(予約不要)

対 象： 子どもから大人までどなたでも



### 「やさしいコーヒーの淹れ方講座」

のとじま手まつり実行委員会との連携イベント。

地元の作家が制作したうつわを使いながら「やさしい」コーヒーの淹れ方を学びます。

日 時： 9月16日(日)、23日(日) 各日①10:00~ ②14:00~

場 所： 別棟2F

講 師： 純喫茶 中央茶廊マスター 窪丈雄氏  
(アドバンスド・コーヒーマイスター)

参加費： 500円

所要時間： 約60分

定 員： 各回8名

申 込： 8月1日(水)から電話にて受付開始  
(定員になり次第締め切り)

